



排水ポンプ車



高谷川

災害対策

鬼高3丁目地先の道路冠水対策

産業道路(県道若宮西船市川線)の鬼高3丁目地先では、豪雨の際に道路が冠水して通行の妨げとなり、

鈴木啓一議員(ポランテア)

**市民の不安軽減に市が取り組むべき
冠水予測時はポンプ車待機など対応**

また沿道の民家へも浸水する等、周辺の市民は大変困っている。抜本的な下水道整備に何年かかるのであれば、市は更なる冠水対策を先行させ、市民の不安を少

しても早く軽減するよう取り組むべきではないか。
答 この地域の道路冠水対策としては、真間川に放流する排水路や排水機場の改良工事を行った。今後も早期整備に努め、気象情報に基づき早期の水防体制をとると共に、排水ポンプ車を現地に待機させ排水にあたらせる等の対応をしたい。

職員の削減

本市の職員数は、平成10年以降約700人減っており、更に今後2年間で60人減らす計画とのことだが、

佐藤義一議員(民主・連合)

**災害時の対応考慮し やめるべきでは
今後の動向見極め 方向性を定めた**

東日本大震災では、犠牲的な精神で頑張り続ける公務員の姿がある。災害時の対応を考慮し、これ以上の削減はやめるべきではないか。

答 2年間の職員定期昇給自然増分だけで、約8億円が見込まれ、この対応には90人の削減が必要だが、技術職員不足分の採用を考慮し60人の削減とした。財源が減ることによる市民サービスの低下を防ぐため、2年間は計画通り進める必要がある。その後については、今後の動向を見極め、方向性を定めていく。

災害時のペット対応

本市の地域防災計画では、災害時に避難所へのペットの同行避難を認めているが、まだ知らない飼い主も

並木まき議員(みらい)

**飼い主向けの資料を配布し周知する
同行避難の準備含めた周知 どう行う**

多い。また、同行避難に際しては、日頃からの飼い主による基本的なしつけやマナーの遵守などが重要と考

答 今後は、ペットの飼い主向けに、注意点を分かりやすくまとめた資料を作成したいと考えている。その資料を狂犬病予防接種の際や、市内の動物病院で配布したり、猫の不妊手術費助成金募集要領と一緒に市民課窓口等に置くなどして、飼い主への周知に努めていきたい。

危機管理体制

今回の震災発生後、災害弱者への対応などについて、市はどう取り組んだのか。また、市民の生活・生命・

荒木詩郎議員(みらい)

**災害に強い街づくりに取り組む
今後の体制をどう考える**

安全の確保が行政の最大の責務であり、危機管理体制の確立に向け、引き続き市長のリーダーシップを期待するが、今後の危機管理体制をどう考えるか。

答 災害対策本部を設置して各部で対応したが、今回の教訓を活かし、地域防災計画の見直し、高齢者等の災害弱者に対しては支援体制の充実等の改善に努めていきたい。
また、市民の生命、財産を守るという視点から、災害に強い街づくりに取り組んでいきたい。

教育

夢の実現を支援する教育

人は誰でも夢や目標があれば、そこに近づくための努力をするはずである。本市の学校に通う生徒全員が

越川雅史議員(緑風会)

**夢を共有し結びつける取り組みを
情報の発信方法を工夫して支援**

夢や目標を持つようになれば、本市の教育レベルは自

支援することはできないか。
答 将来の市川を支える意欲あふれる人材を育成する観点から、小中学校では子ども達が夢を共有する場を設けている。
今後は情報の発信などの方法を工夫して、中学校ブロックを核に学校の枠を超えた子ども達の夢の結びつきを支援していく。

家庭所得と子どもの学力

景気低迷が家計の教育費に大きく影響し、親の所得状況によって教育を受ける機会に差が生じる教育格差

中村義雄議員(公明党)

**教育格差拡大の懸念 市の認識は
全ての子どもの学力向上に取り組む**

の拡大が懸念されている。家庭所得と子どもの学力の

答 本市では特に調査等は行っていないが、全ての子どもの学力向上は学校教育の当然の役割として、少人数指導や家庭学習の習慣づけ等を各学校で実施している。また、地域ぐるみで体験活動や学習支援活動を行っている学校もあり、他校への紹介等に努めたい。

災害対策

職員の災害対応

東日本大震災発生時は、職員が勤務中だったこともあり、出勤体制を含め災害対策は、ほぼ訓練通りでき

宮田かつみ議員(自由民主党)

**休日や夜間の職員の出勤体制は
自動参集して災害に対応**

ていたと考えている。
今後、東日本大震災で本

答 休日や夜間に地震が起きた場合、危機管理監や危機管理課職員等が自宅から市役所の情報収集室に駆けつけて、災害情報や被災情報の収集を行う。また、危機管理課以外の指定された市内在住の職員も初動配備場所に自動参集して災害に対応していく。

田尻地区の災害時避難

田尻地区の広域避難場所には、江戸川堤防や河川敷が指定されているが、同地区と江戸川堤防の間には高

佐藤幸則議員(自由民主党)

**高谷川に橋を新設すべきでは
県と協議し検討していきたい**

谷川が流れており、災害時に避難するには、この川を

とほできないか。
答 江戸川堤防や河川敷を、広域避難場所としていることから、そこに安全に避難することが出来る橋は必要と考えている。橋を架ける場所や橋の規模については、一級河川である高谷川は県の管理であるので、県と協議を行って、調査・検討していきたい。